

大牟田市立玉川小学校

1 本校のESDの特徴

本校区は、大牟田市の南東部に位置し、周りを緑に囲まれたとても自然豊かなところである。本校におけるESDの取組は、学校教育目標の「志を持ち、自ら考え行動できる児童の育成」を受け、本校区の特徴である「心温かな地域住民」「自然豊かな環境」「伝統ある地域文化」を利用して、その目標を「将来にわたって、持続可能な社会を構築するために、一人一人の児童が人や環境と深いつながりがあることを知り、『地域』を大切にする心情を育てる」と設定した。そこで、ふるさとのよさに気付く、玉川のまちに誇りをもつ児童を育成するために、玉川ならではの「人・もの・こと」を学びの対象とし、それらとのつながりを各学年ごとに意図的に仕組んでいる。

また、ふるさとのよさに誇りがもてるよう、学習したことを学習発表会だけでなく、櫛野祭、玉川どんど祭といった地域行事の中でも発表することで、玉川ならではのよさを再確認するとともに発信していくことを大切にしている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

- (1) 1年生 「ひとつぶのたねから」(地域の方とさつまいも栽培) 人につながる
- (2) 2年生 「ぐんぐんのびろ」(地域の方と野菜栽培) 人につながる
- (3) 3年生 「玉川探検隊」(地域の人々の思いや願いを知る) 人につながる
- (4) 4年生 「自然を守ろう! 鳴川・諏訪川調査隊」(地域を流れる川環境学習) ものにつながる
- (5) 5年生 「米作りに挑戦」(地域資源を活かした農生産) もの・歴史につながる
- (6) 6年生 「櫛野石の秘密を探ろう」(郷土学習) もの・歴史につながる

3 特徴的な活動事例の紹介



4年生の取組

総合的な学習の時間

単元名「自然を守ろう! 鳴川・諏訪川調査隊」

(1) 目標

- ① 地域を流れる鳴川の調査を通して、地域の豊かな自然環境の素晴らしさを知るとともに、その素晴らしい自然を守ろうとする心情を育てる。
- ② 同じく川学習を行っている他の小学校との交流を通して、共通点や相違点を比べながら、大牟田市全体の自然環境の実態を知るとともに、大牟田市の環境保護のために自分達にできることを考え、実行することができる。

(2) 具体的実践

【課題設定】 校区の川環境について調べよう

○5年生から、昨年度学習して取り組んできたことを引き継ぎ、学習課題を捉える。

【活動ステージⅠ】 鳴川や諏訪川の環境を調査しよう

- ①鳴川・諏訪川の実態について予想する。
 - ・ 5年生の話をもとに
 - ・ 普段の生活を想起して
- ②鳴川・諏訪川の環境調査をする。
 - ・ 1回目鳴川調査→ネイチャーガイドの先生をG Tとして
 - ・ 2回目諏訪川調査→環境保全課の方々をG Tとして
- ③市内の川学習に取り組んでいる学校と交流し、共通の課題を見いだす。
 - ・ ZOOMを使って「水質」「透明度」「指標生物」「ゴミの種類」の4観点から情報交換
- ④自分達にできることを考え、実践する。
 - ・ 各家庭での実践
 - ・ 校内発信



川の環境調査



オンラインでの情報交換

【活動ステージⅡ】 多くの人に伝える方法を考え実行しよう

- ①ステージⅠの実践を想起して、課題を捉える。
 - ・ 家での取り組みだけでは、川環境はなかなか変わらないことから、もっと多くの人の協力が必要であることを捉える。
- ②「5校合同川サミット」を通して、川環境の保護について
 - ・ 市全体に広めるための共通実践を考える。
 - ・ 川サミットで決めた共通実践を実行する。
 - ・ 共通のキャッチフレーズを作成→ポスターにする



「5校合同川サミット」での交流

【行動・発信・ふり返し】 自分達の取り組みの成果と課題を まとめよう

- ①共通実践に関するアンケートを実施する。
 - ・ まちづくり協議会の方々に協力していただき、5校で決めたキャッチフレーズ「少しの努力で未来は変わる～5校合同K・U・Kプロジェクト～」についての認知度調査を行う
- ②キャッチフレーズを載せたポスターを作り、地域に発信する。
- ③再度認知度調査を行い、成果と課題をまとめる。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・ 地域の方の協力で、多くの人に実態調査を行うことができた。この経験で、子ども達は「学校外の他者の力をつかうことができる」ことを知ることができた。
- ・ 5校で共通する学習をし、ZOOM を使って調査結果についての情報交換や考えの共有をしたことにより、視野を校区から市へと広げて考えることができた。
- ・ 「5校合同川サミット」を通して、もっと多くの人に川を守る大切さを伝えるにはどうすればいいかを話し合う事は子ども達の主体的で対話的な深い学びの実現につながった。

○課題

- ・ サミットで自分の考えを他者に伝えるための指導内容と活動の充実
- ・ 次年度にどのようにつないでいくか、また、次年度のゴールをどうするか